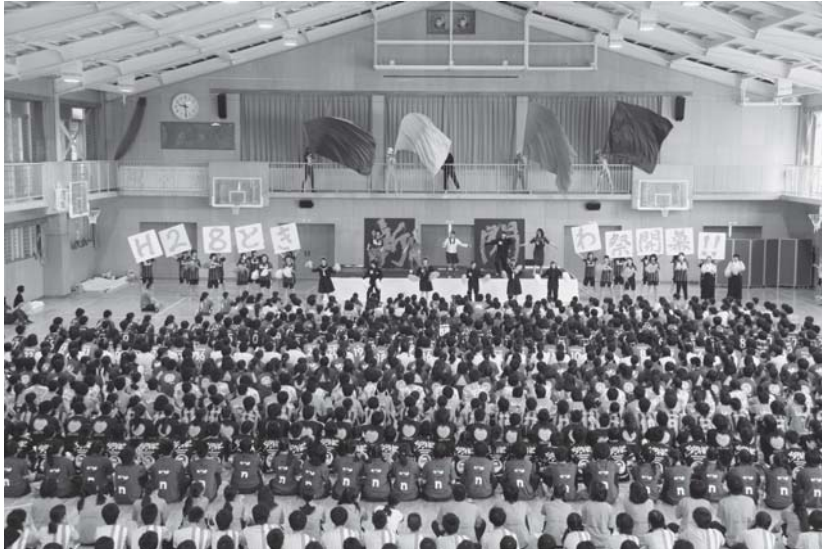


學藝通信

第101号

2016年7月21日発行
浜松学芸中学校・高等学校
浜松市中区下池川町34番3号
<http://www.gakugei.ed.jp>



と き わ 祭



題字：芸術科 書道課程3年 大場千聡



充実した夏休み

Summer Mission=夏休みを経営せよ!

校長 内藤 純一

夏休みが目前となりました。本校の場合、31日間と少し短めなのですが、それでも丸々1ヶ月お休みになるのですからウキウキしますよね。私は、夏休みに限らず、長期休暇は欠かせないものだと思っています。その一番の理由は、日頃なかなかやれないことをする時間が確保できるからです。「良いところを伸ばす」ことや「良くないところを改める」こと、あるいは、「新しいことにチャレンジする」ことなどに学期中よりも少し余裕をもって取り組み、自分自身を成長させるチャンスとして活用できれば最高です。そこで、私から生徒の皆さんへの Summer Mission(夏の任務)は、『夏休みを経営せよ!』とします。

「社長でもないのに、自分に関係あるの?」と感じる人もいるかもしれませんが、この言葉には「計画を立て、工夫して物事を行うこと」という意味があります。社長だけでなく、誰にとっても現実的なことなのです。そして、皆さんは既に6月の『ときわ祭』で実際に見事な経営をしたのです。それを認めてくださっているのが、PTA会長の鈴木孝尚さんです。鈴木会長は浜松市内で150年以上続いている老舗の経営者なのですが、今年の『ときわ祭』をじっくりとご覧になって、次のようにおっしゃいました。

「準備期間が短いうえに少ない予算という厳しい条件にもかかわらず、非常に多くの工夫を取り入れて作り上げて

いる。経営的観点から評価すると、素晴らしいの一言に尽きる」

そのお話に続いて私が「閉会式終了後、生徒たちはほとんど跡形もなく片付けました」と言うと、鈴木会長は「完璧です!」と感嘆されていました。経営上の基本的な手順のことをマネジメントサイクルというのですが、これを簡単に表したものがP・D・S(Plan=計画・Do=実行・See=確認)サイクルです。『ときわ祭』での皆さんの取り組みをP・D・Sに当てはめると、基本をしっかりと踏まえた完璧な経営だったということになるでしょう。

今年の夏休みに皆さんが使える時間やお金などの条件には限度があるはずですが、それらをいかに工夫して活用するか…。まずはP=計画を立てましょう。できることならば自分の力で立案してほしいものです。そしてD=実行しましょう。予定通りに進まないこともあると思いますが、その場合は修正すればいいのです。仕上げのS=確認を忘れないようにしましょう。仮にうまく進んだとしても、振り返って自己評価しなければ新たなPにつながらないかもしれません。私からの Summer Mission、ご理解いただけでしょうか?

後期の始業式で皆さんの元気な姿が見られることを楽しみにしています。

中学校 NOW ②0

6月20日、NHKの番組「プロフェッショナル 仕事の流儀」で保育士の野島千恵子氏が取り上げられていました。野島氏は30年以上前から、障害のある子どもや年齢の違う子どもを一緒に育てる「インクルーシブ保育」を実践してきた方です。彼女は「子どもは、ほかの子どもを教材にして学んでいっている」という信念を持ち、今までさまざまなことに挑戦してきました。あまりにも当たり前のことですが、人の気持ちをや感情に気づかされるのは他人とのつきあいの中で育まれるものです。集団では「意見が違うこと」が前提となり、トラブルが起きたとしても、そこから双方が主張し合い・認め合い・譲歩し合う過程が人を思いやることにつながっていくということです。

また、スイス生まれの精神科医エリザベス・キューブラー・ロスが世界中の数千人の自殺者の日記を研究し、そのレポートを出して世界に衝撃を与えました。その内容は「自殺した人の日記には共通項がある。日記にはすべて自分のことしか書かれていない」というものです。どうやら人間は、他人のことではなく自分のことだけを考えていくと、生きる力を失うらしいです。人間の生きる力というものは自分の中にあるのではなく、他の人からもらっているということになります。

さまざまな年齢や環境の異なる人との関わりが私たちを

大きく成長させてくれます。学校は多くの人と関わり合っていく場ですから多少なりとも問題は起きていきます。しかしどう対応していくかを学びながら生きる力を育てていく場でもあります。

多くの行事を通して生徒に刺激を与えていくのもこのためです。今年は初の試みとして、中1年生の野外宿泊活動では高校1年生(美書クラス)と一緒にキャンプファイヤーとピザ作りをしました。中高一貫の特性を生かす行事で、中1生にとっては先輩に学ぶことができる機会だと思います。(この原稿を6月末に書いていますので、おそらく「できた」と信じています)また、昨年からはまった中2生のイングリッシュキャンプでも異なる国から5人の外国人講師を招いて、それぞれのお国紹介をしていただきます。異文化交流および理解の一步となればうれしい限りです。中3年生は前期のディベート大会では大学をテーマとし、自分の進路について考え始めました。さらに夏休みには来春の修学旅行についての調べ学習の課題が出されます。自分を取り巻く社会に関心を持ちながら、自分とどのようにつながっているのかに気づいてほしいと思っています。

夏休みには新しいことに挑戦し、自分の財産をふやしていきましょう。(中学校部長 福田耐子)

をすごそう!!



高 1

2020 東京五輪 20歳

この夏の8月5日からリオで夏のオリンピックが始まります。順調にいけば4年後の2020年には東京で二回目の夏のオリンピックが開催される予定です。今の高1生は今期のリオオリンピックで16歳ですので、次期開催予定の夏の東京オリンピックでは20歳、大学に進学すれば大学2年になっている年齢です。次のオリンピックというはまだまだ先のような感じがしますが、もうまもなくと考えた方が良いでしょう。

そこで、「きらきらと輝く20歳」を迎えるためにも、このリオオリンピックの夏から20歳の東京に向けての準備をしていきましょう。特に1学年普通科は、この夏休みを利用して「夏期進路研究」を実施するように、担任の教員を通じて生徒に投げかけています。高校に入学したばかりなのにもう進路研究と思われるかもしれませんが、高1のこの夏の時点から進路意識を高く持ち、大学のオープンキャンパスや特別講座に参加することにより、将来について真剣に考えさせていきたいと考えております。また学芸高校普通科は、高2から文理別に分かれたカリキュラムになりますので、10月には文理の選択説明会があり、その選択をしていかなくてはなりません。将来に対する目標設定や、社会に出てどのように貢献していくのかを、少しでも考える機会にしていきたいと思います。

そして、8月は学芸独自の「夏期ゼミ」をよりたくさん利用していただきたいと思います。普段の授業と違い生徒が主体的にゼミ講座の受講を検討し、決定していきます。また普段とは違う教員の指導も受けられますし、前期で取りこぼしてしまった箇所を復習し、得意分野を伸ばしていく講座も用意されていますので、夏休みも是非早起きをして学校での活動を生活の中心においていただきたいと思います。そしてリオオリンピックをTVなどで観戦しながら、次の東京オリンピックの時の自分を想像してもらえたらと思います。

1学年主任 内田敏勝

高 2

努力は成長の糧

2年生の前期もまもなく終わろうとしています。今まで以上に時の経つ速さを実感しているのではないのでしょうか。物事に集中して取り組めば取り組むほど時間は早く過ぎていくように感じられるのだと思います。それゆえに、ここでみなさんに伝えておきたいことがあります。それは、しっかりと各自の将来を見据えた上で、ひとつひとつの課題を乗り越えて行って欲しいということです。高校2年生は、学校行事においても、部活動においても、中心となって取り組む責任を負うこととなりますが、各自の進路目標を達成するための努力も怠ってはいけません。前期終了と

いうひとつの節目を迎えるにあたり、各自このことをもう一度確認して欲しいと思います。学習面においては、ゼミなどを積極的に利用して、弱点の補強はもちろんのこと、実力をさらに高めていくことも意識した計画を立て、進めていってもらいたいと思います。また、自分が就きたい職業は何なのか、その職業に就くためには何を学ぶ必要があるのかをしっかりと研究することも、この夏休みを利用して行ってください。進路目標が定まることによって、学習に対する意欲も大いに変わってくると思います。夏休みが終わると体育祭、修学旅行が控えています。修学旅行に関しても、研修や体験を通してさまざまな文化に触れましょう。そのための事前学習も行っています。忙しいですね。でも、この忙しさを楽しもうではありませんか。ときわ祭でのホームルーム展は、アイデアを出し合い、アクションで盛り上げた魅力的なものであったと思います。あのパワーがあれば大丈夫、乗り切れます。我々職員はそのお手伝いができることを楽しみにしています。

2学年主任 大島敏浩

高 3

受験勉強を通して「内観」を。

改めて言うまでもなく受験生である3年生にとって夏休みは重要な時間です。やろうと決めていたけどやりきれなかったこと、この時期にやるつもりのも、1ヶ月で多くの学びをしたいと思います。暑さに負けず頑張ってください。

さて、この場を借りて君達に言いたいことは、受験勉強を通して自分を見つめて欲しいという事です。折角多くの時間を費やすのです、第1志望の大学に合格するために勉強するだけでは勿体ない。ここは欲張って本校の校訓である「内観・受容・継続」まで手を伸ばしてみましょう。本格的に勉強を始めると、自分の至らなかった部分が客観的に見えてきます(内観)。「ここはこう考えなければならなかった」、「こんなことは今まで知らなかった」、「こう表現したら良かったのか」等、否が応でも突きつけられてきます(そんなこと思ったことがないと言う人はまだ本格的な受験勉強をしてないのでしょうか)。この様な否定的な事ばかり突きつけてくる受験勉強から逃げるのではなく、今までの自分を変えてくれ、可能性を広げてくれる材料を手に入れているんだと前向きに捉え(受容)、その姿勢を持ち続けましょう(継続)。

私は、人が成長するときに「内観・受容・継続」がどうしても必要だと考えています。もちろん勉強以外にも自分を成長させてくれるものはあるでしょうが、今の君達には勉強以外は二の次であるはずで、自分のやっていることを信じて精一杯取り組んで欲しいと思っています。

後期初日、日焼けはしていないが精悍な顔つきになった君達に会えることを楽しみにしています。

3学年主任 藤井 茂

6月18日(土)に卒業生フォーラムが開催されました。本年度は、金融業、営業、医師、スマホアプリ制作など様々な職種の9名の社会人が駆けつけてくれました。私はエンジニアとして活躍する、特進コース4期生の近藤拓さんの分科会に参加しました。近藤さんは、高校卒業後は東工大と大学院で化学を研究し、ヤマハ発動機に就職し、軽くて強い材料を早く速く安く作る研究をしています。仕事を大変だと思ったことはなく、自分の知らない新しい世界で日々楽しんで仕事をしているそうです。

ヤマハ発動機という素晴らしい会社で、日々楽しく仕事ができているなんて、昔から明確な目標をもち、しっかり準備してキャリア形成をしてきたと思われるかも知れません。しかし、彼は進路選択を振り返って、「将来は分からない」ので、将来のことをあれこれ考えず、「今、目の前にある自分にできることをする」そして「楽しむ」ようにしてきたただけだ。進路は、「何となく」「運」「気まぐれ」「縁」「好奇心」で決まっていくのではないかと話してくれました。

確かに、医師になりたいなら、なぜ医師を目指すのか、医学部受験時の面接で「志」を明示する必要があります。しかし、その他の学部では、近藤さんのように「なんとなく」材料を学びたい、「東京の国公立大学に進学したい」ぐらいの選び方でも支障はないこともあります。大切なのは、やるべきことである「受験勉強を楽しみながら行った」ことです。大学でも、「易きに流れない」ために、学生を鍛える扇澤研究室（プラスチックなどを研究）に所属しました。就職は「地元」で「プラスチック関連の仕事」ができそうな会社という理由で、材料関係の他社も視野に入れながら、ヤマハ発動機に就職しました。ヤマハ発動機でなければだめと考えていたわけではないのです。就職後は、日々の研究に取り組みつつ、社内コンペをパスしてインドネシアでの駐在を勝ち取ります。全然知らなかったインドネシア語を積極的に使って現地社員との交流を深めるなど充実した社会人生活を送っています。

7年ほど前、私は喫茶店で彼に会ったことがあります。日本企業がリーマンショックのダメージを受けている頃でした。会社での研究時間が少なくなったので、会社のお金の流れが分かるよう簿記の勉強をしているとのことでした。物事を悲観的にとらえず、前向きにとらえ行動する。そんな彼の心の習慣があれば、どんなに先を見通しにくい時代でもしなやかに生きていけると思いました。

フォーラム後のアンケートには、「将来の目標を持っていないから不安だった」「将来の目標は目の前のことに取り組んでいる中で徐々に決まっていくこともあると聞いて安心した」という回答がありました。確かに現在の入試制度は、志望理由書が必要なAO・推薦入試は私立大学の入学定員の半分、国立大学も15.6%を3年後に3割に増加させるとしています。「あなたは高校時代に何に取り組み、大学で何を学び研究し、将来は何に挑戦したいのか」そんな質問を目にすることが多くなりました。AO・推薦が自分に合っているという人は、「将来」のビジョンを明確に描き、「今」の高校生活と「次」の大学生活を充実させていけばよいでしょう。一方、「将来」のビジョンが描けない人は、それを悩んで元気をなくさないで下さい。今でも大学入試は学科試験が主流です。近藤さんのように、自分に必要だと思うことに注力すれば、しっかりとキャリアを形成していくことはできるのですから。

◆高校1年生へ◆

「生活習慣を見直し、夏休みの計画を立てよう。」

普段の生活を見直してみましょう。そして、「帰宅」「自宅学習開始」「就寝」「起床」それぞれの時間を固定して生活のリズムを作りましょう。前期の生活習慣を振り返り、夏休みに仕切り直しをすることが、休み明けの好スタートにつながります。

◆高校2年生へ◆

「進路の視野を広げて学習意欲を向上させよう。」

進路についての視野を広げることに多くの時間をかけられる時期です。懸賞論文、オープンキャンパス、公開講座に参加しましょう。また、授業が進まないこの時期に、苦手分野の克服や得意科目を更に磨くなど、普段はやれなかったことに取り組みましょう。

◆高校3年生へ◆

「受験勉強中心の生活を確立しよう。」

部活動や学校行事が少なくなり、受験勉強が中心の生活になります。もしかしたら、今まで部活動に熱心だった人ほど、受験勉強の遅れが気になって、勉強が手につかないかも知れません。それでも、「部活動で培った集中力と、部活動と勉強を両立させた経験」は強味です。部活動の時間をそのまま、受験勉強に充てられているか、無駄にしている時間帯はないか、一日の生活を見直してみして下さい。
(後藤貴幸)

【音楽／電子音楽】

二つのコンサート

夏から秋にかけて二つの大きなコンサートを控えています。

まず、7月29日にアクトの中ホールで『ポップス&クラシック2016』が行われます。昨年より行われているものですが、音楽課程の管弦打楽器の生徒と電子音楽課程の生徒による演奏会です。タイトルどおり、トランペット協奏曲やミュージカル曲そしてジャズなど様々なジャンルの曲を演奏します。ジャズに関しては、今年もヤマハ音楽振興会のご厚意により、エレクトーン奏者の倉沢大樹先生によるワークショップで指導をしていただき、生徒たちはアドリブに挑戦しています。真夏の夜、暑さを忘れられるステージになることでしょう。



そして、アクトの大ホールで秋分の日9月22日には『定期演奏会』が行われます。第1部はオペラ「ヘンゼルとグレーテル」です。例年通り、声楽専攻・ピアノ専攻の生徒が舞台上で演じ、その他の音楽・電子音楽課程の生徒がオーケストラピットで本格的なオーケストラ伴奏を行います。また背景美術は美術課程の生徒が担当するなど、専攻・課程の枠を超えて舞台を作ります。オペラは敷居が高いと思われがちですが、子供の頃に一度は読んだことがある作品ですので、楽しんで観てもらえると思います。第2部では、選ばれた生徒によるヴァイオリン独奏と2台ピアノの演奏で、2曲とも、サン＝サーンスの作品をお届けします。そして演奏会を締めくくのは、音楽・電子音楽課程の生徒全員77名による合唱です。今年はメンデルスゾーンや日本唱歌、そして現代ポピュラー音楽など様々な時代の異なる地域の音楽に取り組みます。馴染みのある曲も初めて出会う曲もあると思いますが、きっと楽しんでもらえると思いますのでご期待ください。



また、昨年より美術・書道課程の生徒の作品をホワイトエに展示します。ぜひ、アクトの大ホールで芸術の秋を満喫してください。

なお、6月の『学芸コンサート』の際、熊本支援チャリティー募金を行いました。『ポップス&クラシック2016』と『定期演奏会』でも募金を行います。美術・書道課程の作品展で行われる募金とも合わせて、被災地に届けられたらと思っています。皆さんのご協力を、引き続きよろしくお願いたします。

【美術／書道】作品展

季節はめぐり、今年も芸術科美術課程・書道課程「作品展」が開催されます。

美術課程では、大型のデッサンに加え、油絵・日本画・彫刻・デザインの4専攻の特性を生かした90作品(絵画・立体・映像・自由制作等)を展示します。会場入り口には、デザイン専攻が共同制作した大型作品が来場者を迎えます。東日本大震災・熊本震災へのチャリティー募金のために制作したオリジナルグッズの販売も行います。

書道課程では、「全国高等学校総合文化祭」へ出品した2点をはじめ、合計70点の力作を展示します。漢字・仮名・漢字仮名交じりの書に加え、きらびやかな刻字をご覧ください。特に「生活の中に生かす書」というテーマで制作した作品は必見です。

また、美術・書道課程ともに「ギャラリートーク」を実施します。日ごろの制作過程や作品に込めた情熱を言葉にして解説します。みなさん、お誘い合わせの上、ぜひご覧ください。

- ◆会期：2016年10月4日(火)～9日(日)
- ◆開場：9時30分～19時(最終日は15時まで)
- ◆会場：クリエート浜松 3階 ギャラリー 31-34
- ◆ギャラリートーク：10/8(土) 10/9(日)
美術課程 11:30・14:30
書道課程 11:00・14:00



図書室より

いよいよ夏休みに突入です。普段は勉強に部活動に忙しく、なかなか図書室に足を運ぶ機会がない人も、この夏は「図書室デビュー」をしてみませんか。



夏期ゼミの合間の自習スペースとして(冷房が効いていますよ)、小論文や志望理由書の対策本を探しに(司書の大橋先生が相談にのってくれます)、修学旅行の事前研修の資料探しに(専門コーナーが設置されています)、そしてもちろん、お気に入りの一冊との出会いを求めて……。みなさんの夏休みが充実したものとなるよう、図書室をぜひ役立ててください。

- ◆夏休み中の開館日《原則、夏期ゼミ開講日》
8月1日(月)～5日(金)、8日(月)～10日(水)、12日(金)
8月22日(月)～26日(金)、29日(月)、30日(火)
- ◆夏休み中の開館時間 午前9時半～午後3時

入 試 報 告 課

今年度の学芸ガイド(中学・高校)はお読みいただきましたでしょうか。本校には多くの科・課程がありますし、中学校も含めて学校全体について知って頂きたい、という思いから配布をさせて頂きました。これを機会に、学芸の様々な教育内容について知っていただければありがたく存じます。また、PTA 総会の際には多くの皆様にポスター・オープンスクールの案内を持って行っていただきまして誠にありがとうございました。保護者の皆さまの本校への熱い思いを感じ取りました。感謝申し上げます。

部活動では、運動部・文化部が東海大会や全国大会に出場し、芸術科も各コンクールで最高賞受賞など活躍してくれました。さらに、合格実績でも『サンデー毎日』『週刊朝日』といった雑誌の進学特集に取り上げられました。自信を持ってお声がけ頂けるのではないかと自負しております。お近くに小学校5・6年生の児童・保護者、中学校3年生の生徒・保護者の方がおられましたら、気軽にお声がけ頂ければ大変嬉しく思います。

中学校と高校の募集に関連するイベントの日程は以下の通りになっております。

※申込は、ホームページ・FAX・郵送・持参等で。

◇中学校オープンスクール(第1回、第2回) 6/19(日) …体験型、申込必要 8/7(日) ……「わくわくサイエンス」体験型、申込必要 ※第3回オープンスクール…11/3(祝) ※第4回オープンスクール…12/10(土)
◇中学校入試レクチャー(過去問解説・傾向と対策講座) 第1回7/17(日)、第2回目10/23(日)
◇「ときめき English」…9/10(土) 英語体験、申込必要
◇中学校入試個別相談会 8/1(月)、8/2(火)、9/17(土)、10/15(土)、10/29(土)、11/5(土)、 11/19(土)、12/17(土)、12/22(木)、12/26(月)～28(木)、1/21(土) 9:00～12:00 随時受付、申込不要
◇高校オープンスクール(第1回、第2回) ・普通科→8/7(日)…授業体験型、申込必要 9/10(土)…授業見学型、申込不要 ・芸術科(音楽・電子音楽) →8/7(金)、9/10(土)…実技体験、申込必要 ・芸術科(美術・書道) →8/7(日)、9/10(土)…実技体験、申込必要 ※第3回オープンスクール…11/3(祝) 第4回オープンスクール…12/10(土)
◇高校入試個別相談会 上記中学校入試個別相談と同じ日程
◇芸術科実技相談会(実技の適性判断) 第1回 12月3日(土) 申込必要 第2回 1月7日(土) 申込必要

一 学校の会計(平成27年度)

平成27年度の学校の財務諸表は、5月23日の法人監事による内部監査、5月30日の法人評議員会・理事会及び5月30日付けの公認会計士による法定監査調査において適正・妥当であると承認され所轄庁に提出いたしました。文部省令にもとづく学校法人会計基準に則って資金収支計算書は学校の一年間のすべての教育活動に伴う資金の動きを表示し、消費収支計算書は帰属収入より基本金組入額を控除した消費収入に減価償却額等の資金の動きを伴わない経費を含めすべての消費支出を対応させて、当年度における学校経営の消費収支状況を明らかにし、貸借対照表は平成28年3月31日における学校の財政状態のすべて、即ち資産・負債・基本金・消費収支差額を表記したものです。

資金収支計算書

(単位 千円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	543,359
手数料収入	19,073
寄付金収入	271
補助金収入	387,135
資産運用収入	8,966
資産売却収入	0
雑収入	76,701
借入金収入	0
前受金収入	73,384
その他の収入	48,263
資金収入調整勘定	△150,389
前年度繰越支払資金	174,002
収入の部合計	1,180,765
人件費支出	831,940
教育研究経費支出	121,726
管理経費支出	29,121
借入金等利息支出	3,732
借入金等返済支出	43,500
施設関係支出	6,318
設備関係支出	5,786
資産運用支出	59,278
その他の支出	24,705
資金支出調整勘定	△90,009
次年度繰越支払資金	144,668
支出の部合計	1,180,765

消費収支計算書

(単位 千円)

科 目	金 額
学生生徒等納付金	543,359
手数料	19,073
寄付金	538
補助金	387,135
資産運用収入	8,966
資産売却差額	0
雑収入	11,006
帰属収入合計	970,077
基本金組入額	△70,147
消費収入の部合計	899,930
人件費	743,528
教育研究経費	215,258
管理経費	29,356
借入金等利息	3,732
資産処分差額	14,261
徴収不能額	0
消費支出の部合計	1,006,135
当年度消費収支差額	△106,205
前年度繰越消費支出超過額	△676,931
翌年度繰越消費支出超過額	△783,136

貸借対照表

(単位 千円)

科 目	金 額
固定資産	3,271,639
流動資産	226,890
資産の部合計	3,498,529
固定負債	478,448
流動負債	211,618
負債の部合計	690,066
基本金の部合計	3,591,599
消費収支差額の部合計	△783,136
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	3,498,529

註：(単位 千円)
減価償却額の累計の合計 1,757,630
基本金未組入額 439,513